

1. 平野郷の歴史とまちなみ

大阪の中でも最も早く、平安時代から開けた平野郷は、交通の要衝として商業が発展、戦国時代には自衛のため、まちを環濠と土居をもって囲み、町民合議でまちを運営する自治都市として、堺とともに、日本の近世史にその足跡を残しています。

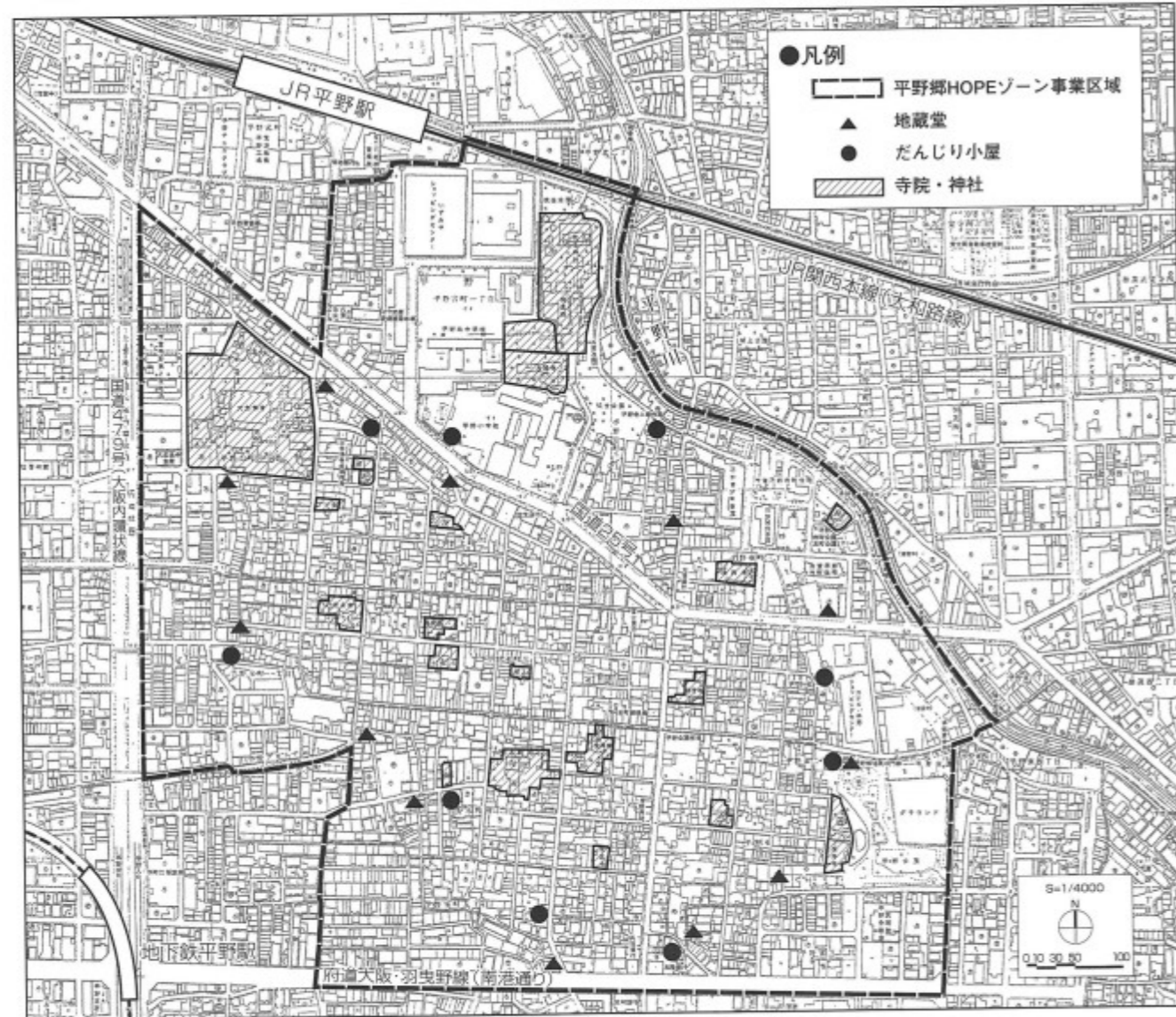
また平野郷は、江戸時代には大和川付け替えによって、隆盛した河内木綿の集散地として繁栄しました。まちの活気は文化の交流を呼び、京都や堺の町衆と同じく、連歌や茶道、能楽などが町民に普及し、杭全神社の連歌所や民間の学問所である含翠堂などの創立をみました。

現在も環濠都市の面影を伝える次のような豊富な歴史資源があり、まちなみの特徴となっています。



【攝州平野大繪圖】宝暦13年 (1763) (平野郷町誌)

■平野郷HOPEゾーン事業区域における歴史資源の分布



■環濠

まちを取り囲んでいた環濠のほとんどは埋め立てられていますが、濠を埋め立てて形成された曲線形の道路や、環濠の入口であった十三口の木戸跡付近に残る地藏堂など、当時の面影が今もなお残っています。



平野郷のまちなみ

■町割り

元和2年 (1616) に行われた町割りが現在でも継承され、旧環濠内は、当時のままの格子状の街区となっています。



■地藏堂・だんじり小屋など

十三口の地藏堂とともに、夏祭りのだんじりが納められた九つのだんじり小屋が、まちなみの大切なポイントになっています。また、随所に道標や碑なども見られます。



市ノ口地藏堂

だんじり小屋

■寺院・神社

数多くの寺院・神社があり、土堀や門、大きな屋根瓦、境内の緑なども、まちなみの重要な要素となっています。

■伝統的建物 (町家)

江戸から昭和初期にかけて建造され、時代ごとに階高や間取りに特徴のある多様な様式の町家が現在でも数多く見られます。また、町家ばかりではなく、庭付戸建、邸宅風長屋、洋風建物など様々な建物があります。このように、多様な伝統的建物が見られることがこの地区の大きな特徴です。



つし2階建町家



箱軒型高2階建町家